

9年間の学びが育む 未来のツバサ

平成29年に羽島市立桑原小学校と桑原中学校を統合し、小中一貫の義務教育学校として開校した羽島市立桑原学園。

教科担任制や異学年交流などの特徴と合わせ、

同校が大切にしている地域との結びつきを紹介します。

小学校と中学校が隣接する 立地条件を有効活用

義務教育学校とは、小学校と中学校を合わせて一つの学校とする新しい学校種。羽島市立桑原学園の前身にあたる桑原小学校の開校は、今から100年以上前の明治6（1873）年にさかのぼります。小学校に隣接して桑原中学校が創立したのは戦後の昭和22（1947）年。

義務教育学校化にあたっては、両校が隣り合っている立地条件が大きなアドバンテージになりました。

両校が小中一貫教育に向けて動き出したのは平成20年頃。学力の向上や特色ある学校づくりを目標とし、研究結果の発表会などを行ってきました。平成28（2016）年には、学校教育法の改正に伴った義務教育学校の制度化を受け、

3

早速設立準備委員会を設立。統合に向けて、保護者をはじめ地域の理解にも支えられながら、さまざまな準備を進めました。

「小学校と中学校では、1時間あたりの時間の長さ以外にも、環境面や文化面で多くの違いがあるんです」と教えてくれたのは、校長の小川和彦先生。ほとんど前例のない中で、休み時間を調整して時間割を統一するなど、さまざま



後期の生徒が前期の児童に主要教科を指導する異学年交流。小中一貫教育ならではの光景です



4 図工の学習ではICT（情報通信技術）を積極的に活用。見る場所によって作品が変化する展示をタブレット端末で撮影し、プレゼンテーションを行いました



3 作品を寄贈してくれた地元の写真クラブを招待し、子どもたちが書いた鑑賞文を紹介して交流を深めました



2 学校の菜園づくりには地域の人たちが協力しています



1 新型コロナウイルスの影響で、今年度は運動会が中止。9月に児童生徒会の発案で、代替行事として「全校レク」を実施し、感染対策を徹底しながらカードめくりや玉入れを楽しみました

な試行錯誤を繰り返したと振り返ります。そして翌年4月、大野郡の白川村立白川郷学園とともに、県内初の義務教育学校として、両校を統合した羽島市立桑原学園が誕生しました。

一方で5年生から9年生まで、前後期をまたいで運動会の企画運営などを担う児童生徒会や、後期の生徒が前期の児童に行う主要教科の個別指導といった、異学年交流も積極的に推進。前期の児童は、早い段階から後期の生徒の立ちふるまいや雰囲気に触れ、逆に後期の生徒は年下の児童を指導する経験を通じて、年長者としての自覚や自立心を育んでいます。

小1から教科担任制を導入しスムーズな一貫教育を推進

同校は小学校にあたる6年間を前期課程、中学校にあたる3年間を後期課程とし、1年生から9年生までの一貫教育に取り組んでいます。一貫教育を支える制度の一つが、一人の教員が特定の科目を担当し、複数のクラスを指導する教科担任制です。英語は1年生、図工や音楽といった技能教科は1、2年生より、一人の教員がほとんどの教科を指導する学級担任制から移行。5、6年生までに国語、算数、理科、社会の主要教科も含め、全体の7、8割が教科担任制に切り替わります。

さらに昼の放送も全学年共通。後期の生徒による高校進学に向けた取り組みや体験談の放送は、前期の児童が早くから自分の将来を見つめるきっかけづくりになっています。

地域とのつながりを育む さまざまなふるさと教育

同校が統合前から大切にしてきた地域との関わりは、地域の歴史や農業、福祉について学ぶ「ふるさと教育」として現在も受け継がれています。地域に根差そうとする学校の姿勢に対し、地域のコミュニティセンターやさまざまな団体、地元の子どもたちは学校外でも幅広く活躍しています。

また、学校菜園の草取りや校内の清掃作業、スズメバチの駆除などの方法や速度に極端な変化は起こらないため、スムーズな適応が可能になります。

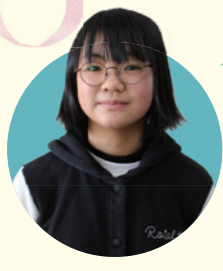


羽島市立桑原学園 校長 小川和彦先生

「地域の有志が学校運営を積極的にサポート。小川先生は、「地域の多くの皆さんが『何か困っていないか』と、いつも親身になってくださっています。自然発生的なボランティアには、本当に感謝の言葉しかありません」とほほ笑みます。「地域の皆さんのあたたかい応援に恩返しをしていく意味でも、人材や資源など、この地域ならではの魅力を子どもたちに伝え、いざは外部にも発信していきたいようにすることが今後の目標。こういった取り組みが、少しでも地域の活性化につながっていけばうれしいです」

義務教育学校として質の高い特色ある教育を推進しながら、地域と共にあるコミュニティ・スクールを目指す羽島市立桑原学園。コロナ禍で迎えた卒業シーズン、充実した9年間で確かな学力や心身の成長はもちろん、地元愛を育んだ子どもたちが大きく羽ばたくことを願ってやみません。

進級・進学を控えた子どもたちへインタビュー



6年生 岡田一瞳さん

前期課程ではいろいろな学年の子と関わりを持っていました。4月から後期課程に進みます。これからはできるだけ年下の子たちにしゃべりかけていきたいです



8年生 串田考翔さん

生徒会に所属して「全校レク」の企画運営に携わるなど、たくさんの活動を行いました。9年生になったら、みんなをひっぱっていろいろな活動を行いたいと思います



9年生 大橋一輝さん

生徒会長として幅広い学年と接する中で、素直さなど年下の子たちから学ぶこともありました。高校進学後も、この学校で得られた多くの経験を生かしていきたいです